

記 者 会 見

日 時 令和7年6月5日(木)

午前11時から

場 所 市役所3階 大会議室

1 令和7年度6月補正予算(案)の概要について

【資料1-1.2 ページ】

- ・6月補正予算の柱立てとしては、①次世代を支える担い手の育成とDXを活用した省人化への新たな取組み、②地域のつながりと市民活躍の推進、③健やかで安心できる暮らしの実現の3点です。
- ・国における事業採択あるいは県の予算との関係で連動したものが中心ですが、緊急に対応すべきものも含まれています。

【資料1-1.3ページ】

- ・一般会計の補正予算の規模は8,030万1千円です。
- ・昨年の補正予算は、コロナワクチンの費用や、能登半島地震の関連、それから環境関係が多かったのですが、昨年と比べると2億円以上の減となっています。

【資料1-1.4ページ】

- ・個別の事業についてお話しします。
- ・まず自動運転です。
- ・今週、自動運転の実証事業について正式な採択の連絡を受けました。それに基づいて、昨年度に引き続き予算化をしたものです。
- ・事業費は、全体で4,500万円。
- ・昨年度は国庫補助10分の10の事業でしたが、今回は5分の4であり、5分の1が市の負担になりました。
- ・この5分の1に相当する900万円を、市が負担するという予算です。
- ・自動走行の内容について、基本的には昨年度同様、レベル2での運行になりますが、将来のレベル4での運行を見据え、車両を最新機種にグレードアップします。
- ・また、交通状況を車両に伝えるシステムも導入します。
- ・ルートについては、市役所から武生中央公園までの往復3.4キロです。
- ・期間について、昨年度は1週間でしたが、今年は、たけふ菊人形期間中の2週間を予定しています。
- ・事業費の関係もあり、詳細はこれから詰めますが、運賃は、無料とする予定です。
- ・多くの人に体験していただきたいと思います。
- ・将来の新幹線駅との交通につなげていけるようにしていきたいと思っています。

【資料1-1.5ページ】

- ・看護学校の就学支援です。
- ・武生看護専門学校を存続させる上で、学生の募集は極めて大事です。
- ・武生看護専門学校は、本市の医療機関や介護施設、福祉施設における看護師の確保という観点から、重要だと考えています。
- ・県において、新たに支援制度を拡充してもらいました。
- ・拡充した支援制度は、武生看護専門学校も対象になると聞いており、これと連動する形で、就学に係る準備費用の一部を支援したいと思っています。
- ・対象は、令和8年度に武生看護専門学校に就学する看護学生のうち、卒業後、市内の医療機関などに就業しようという気持ちのある学生です。
- ・1人当たり20万円、20人分を予算化したいと思っています。

【資料1-1.6ページ】

- ・農作物鳥獣害防止対策事業、特に、ICT機器を活用した鳥獣害対策の支援事業です。
- ・ICTを活用した実証モデル地区を国に申請し、4月に選定されました。
- ・国費補助10分の10の事業であり、県を通じて10分の10が市に来ます。
- ・鳥獣害対策は、どの地域も深刻です。
- ・高齢化が進み、鳥獣害に対応する人が中々いないことから、捕獲・追い払い・侵入防止柵の点検の省人化を行います。
- ・効果的、効率的なやり方につなげたいと思っています。
- ・自動捕獲システムのついたイノシシやシカの檻、サルの追い払い用のドローン、電気柵の電圧監視システムといった、人が動かなくても対応できる対策に充てる予定です。

【資料1-1.7ページ】

- ・自治総合センターの補助事業を使い、自治会や自治振興会にテーブルや椅子などの備品を提供するものです。
- ・今年度は、王子保地区と国高地区に対し、折り畳みテーブルや椅子などを助成する予定です。
- ・助成決定が4月でしたので、6月補正になりました。

【資料1-1.8ページ】

- ・先日キックオフミーティングをしました、本市出身のトップアスリートによる地域貢献チーム『e☆SPARKLE』に関する予算です。
- ・フェンシングの佐藤希望さん、ビーチバレーの村上めぐみさん、自転車の中島康晴さん、駅伝の田中悠登さん、ハードルの野村有香さん、この5人が、ふるさとに貢献したい、地域に貢献したいということで、このグループを作っていただきました。
- ・スポーツを通じて市民の活動を応援したい、また、マラソンや自転車イベントにしても、県外からたくさん人が来てくださいますので、誘客や交流人口の拡大にもつなげたいと

考えています。

- ・e☆SPARKLE 独自の事業もありますが、市と関連する部分を予算化しています。
- ・まず、8月11日に、5人揃って、ランニングや競技体験、トークショーなどのイベントを行います。
- ・菊花マラソンでも、ベビーカーを押して歩く、ベビーカーウォークというイベントを予定しています。
- ・また、アカデミーという形で、ジュニアに対する指導教室をしていただくことを予定しています。
- ・さらに、中島さん監修のもと、武生中央公園を発着地とするロードバイクの試乗イベントを企画しています。
- ・私も監督に就任したので、このプロジェクトを精一杯応援していきたいと思っています。
- ・市民の皆さんが、スポーツを「する、見る、支える」ことに喜びを感じ、元気と活力につなげていけるものにしたいと思っています。

【資料1-1. 9ページ】

- ・産後ケア施設の整備を支援する予算です。
- ・今回の施設は、丹南地区で初めて、産後ケアに特化した施設となっています。
- ・現在、丹南地域で利用可能な産後ケア施設は、出産がある場合は産後ケアができなくなります。
- ・しかし、新たな施設は出産施設ではないため、出産に左右されることなく産後ケアができます。そのような意味で、専門施設になります。
- ・出産後退院されたお母さん・お子さん、体の回復が心配な方、育児が心配な方、あるいは日常生活に支障がある方が利用できます。
- ・産後ケアサービスというのは、産後のお母さんと子どもさんのために、助産所や医療機関でのショートステイ、あるいはデイサービスの利用を通じて、体や心を休めてもらったり、育児相談や授乳指導を行ったりすることを言います。
- ・この産後ケアサービスを、丹南で初めてやるということです。

【資料1-1. 10ページ】

- ・コロナワクチンの接種を、引き続き実施する予定です。
- ・今回のワクチン接種については、65歳以上の高齢者、または60歳から64歳までの心臓などに障害がある身体障害者手帳の1級相当の方が対象です。
- ・接種期間は、10月から来年1月までです。
- ・自己負担額は7,500円で、丹南5市町足並みを揃えて実施する予定です。

【資料1-1. 11ページ】

- ・2月の大雪で、旧今立地区の中津山町の建物が半壊しました。
- ・所有者である法人が解散していることから、周りの住民の安全を確保するため、市が所

有者に代わって必要な措置をとる、略式代執行を行うことにしました。

- ・早急にこれを片付け、今年の秋ごろには解体してしまいたい、と考えています。
- ・残置物の処分が必要なため、少し金額が高くなっていますが、国や県の補助も入れ、代執行をする予定です。
- ・これとあわせ、空家等対策計画が今年度で最終年度となるため、市内全域で空き家の実態調査、全数調査をやりたいと思っています。
- ・その結果を踏まえ、今後の適正管理や利活用、危険空家の除却などに取り組んでいきたいと思っています。
- ・空き家は、全国的にも非常に重大深刻な課題となっているので、色々な手を尽くして対策していきたいと思います。
- ・並行して、国に対しても、制度の提案を行っているところです。

【資料1-1.12ページ】

- ・市内の小中学校の児童生徒を対象として、学校給食に、地元産の食材を活用したおかずやデザートを一品追加します。
- ・県の令和7年度の予算事業に基づいて実施するものです。
- ・3月末にその具体的内容が示され、当初予算に間に合わなかったので、補正予算に計上するものです。
- ・地場産プラスワン給食ということで、地元の食材を食べてもらって、食の大切さや地元の産品などを学ぶ機会を増やす、そのような食育活動につなげたいと思っています。

【資料1-1.13ページ】

- ・埼玉県八潮市で、下水道を原因とする道路陥没事故がありました。
- ・本市では、1月に下水道管の緊急点検を行い、異常がないことを確認していますが、今回、国土交通省から、このような事故が起きないように、口径が2メートル以上、かつ、築造から30年以上経過した下水道管について、特別に重点調査の要請がありました。
- ・本市では、雨水を排出する1.1キロメートルの管路が対象となっており、管路内の目視点検などを通じて調査する予定です。
- ・予算の関係は以上です。
- ・引き続き、予算を伴わない事業を説明します。

【資料1-1.14ページ】

- ・ウォーキングイベントについてです。
- ・市が協定を締結している住友生命と一緒に、アプリを使ったウォーキングを促進するものです。
- ・春のイベントは、いま実施中です。
- ・秋のイベントに向けて、いろいろ呼びかけをしていきたいと思っています。

【資料1-1 15ページ】

- ・空き家は、一義的には、所有者に責任をもって管理をしていただくことが必要です。
- ・4月に、固定資産税の納入通知書の封筒に、空き家の適正管理を促すチラシを同封し、計3万4,000通を送付しました。
- ・これを受けて、相談件数も増えています。
- ・また、5月に、建物の適正管理や活用に関するガイドブックを作成しました。
- ・民間企業と協力して作ったもので、今月から配布を予定しています。
- ・さらに、7月には、市民向けに、古民家や空き家の利活用をテーマにしたセミナーを、民間事業者と共同で開催する予定です。

【資料1-1.16ページ】

- ・図書館では、除籍本を学校や公民館に配布するなどして、その利活用を図っています。
- ・4月に、230冊を図書館利用者に配布しました。
- ・5月10日に古本市を開催したところ、約300人が訪れ、合わせて1,000冊以上を配りました。
- ・古本市は、10月あるいは11月にも開催予定です。

2 越前国府発掘×ユネスコ創造都市ネットワーク加盟推進事業について

- ・6月15日に、越前国府大使である岸谷五朗さんをお迎えして、国府発掘体験を行う予定です。
- ・あわせて、市民のみなさんと越前和紙でグリーティングカードを作り、ユネスコ創造都市ネットワークの加盟都市に送るということを、キックオフとしてやりたいと思っています。
- ・ユネスコ創造都市ネットワークの加盟が、5月末から6月上旬と言われてきましたが、まだ連絡がありません。
- ・この日までに加盟が決まっていれば、加盟の記念事業とします。決まっていなければ、それを進める、あるいは、市民の皆さんに広く知っていただく事業にしたいと思っています。
- ・岸谷さんには、発掘体験、トークセッション、そして創造都市に関連するグリーティングカードの作成イベントにも参加していただく予定です。

3 -ECNIZEN CITY 健康ステーション-の開設について

- ・市役所2階に、来週月曜日、健康ステーションをオープンします。
- ・血圧、体脂肪、握力など、いろんな機器を自由に使っていただき、自分の健康状態を「見える化」し、チェックできます。
- ・時間は、9時から17時までです。
- ・利用は、無料です。

- ・自分で測定し、健康増進課の専門職に相談できます。
- ・定期的に相談することにより、生活習慣を変えるにつながると思います。
- ・測定器は、島津製作所から提供いただいたAGEsセンサーのほか、体組成計、血圧計、血管年齢・ストレスチェック、舌口唇機能測定、握力計の6台あります。
- ・ぜひ体験していただきたいと思います。

4 越前市市制施行20周年について

- ・今立町と武生市が合併し、越前市が誕生してから、今年の10月1日で20周年を迎えます。
- ・9月27日の午後1時30分から、市文化センターで記念式典を予定しています。
- ・式典のメインは、市政功労者の表彰です。
- ・20周年の記念表彰も行いたいと思っています。
- ・アトラクションとしては、紫式部をテーマとした吹奏楽の演奏や、昨年紫式部関連イベントでご披露いただいた創作バレエをやりたいと思っています。
- ・また、今年度は市が行っている様々な事業に、越前市市制施行20周年記念事業という冠をつけて、全体として盛り上げていきたいと思っています。
- ・共通のロゴも作りたいと思い、作業中です。
- ・加えて、この記念事業として、NHKさんと共同でのど自慢を開催予定です。
- ・8月2日に予選会、3日に本選を市文化センターで行います。
- ・ゲストは中村美律子さん、北山たけしさんです。
- ・現在、出場者、観覧者を募集中です。
- ・ぜひ、応募いただきたいと思います。
- ・20年の節目の式典で、改めてふるさと越前市に対する誇りと愛着を持って、さらに幸せを実感できるような市政推進につなげていければと思っています。

質疑応答

Q

- ・自動運転バスの実証実験について、昨年の収穫と課題をお聞かせください。

A

- ・自動運転がどのようなものかを市民の皆さんに見ていただけたのが、一番大きい成果だと思います。
- ・たくさんの方が乗り、こんなバスが走るのだというのを見ていただきました。
- ・一方で、従来の交通システムである車との関係において、まだ慣れていないので、自動走行バスを優先させるというマインドや風土を作っていく、受容することには慣れていないので、それを作っていかなければいけません。
- ・ルートに関しても、非常に短いルートでしたので、もう少し交通量の多いところでどうなるかにも、つなげていく必要があると思います。
- ・全国各地でこのような取り組みを行っており、今回の採択も、相当競争が厳しいものでした。
- ・申請額に対し、多少は査定を受けましたが、昨年が続いてやらせていただけるのは、大変ありがたいことだと思います。
- ・将来の本格的な自動運転がこの越前市においても行われるよう、つなげていきたいと思っています。

Q

- ・市は、今年1月に下水道管の点検を独自に行っています。
- ・今回の補正予算で行う点検については、国交省から重点調査の指示があったとの説明でしたが、今年1月の点検の違いはどこにありますか。

A

- ・埼玉県の実例では、污水管が基本的な原因でした。
- ・そのため、1月には、サイズが2メートル以上の污水管を中心に調査し、問題はありませんでした。
- ・今回は、管の種別ではなく、口径のサイズや30年経過しているなど、全体のスペックの中で調査するという趣旨でした。
- ・越前市の場合、東地区の約 1.1 キロが対象になり、それを重点的に調査するというのが違いです。
- ・污水管だけでなく、雨水管も含めて調査をするというのが一番の違いです。

Q

- ・点検方法は、1月も今回も目視点検ですか。

A

- ・今回は、管の口径が2メートル以上のため、管路内に入っただけの目視点検となります。
- ・1月の污水管は、そのような大きな管路ではないで、外からの目視点検でした。

Q

・ユネスコ創造都市ネットワークについて、まだ加盟の連絡は来ていませんが、仮に加盟が決まった場合、それをどのように生かしていきたいですか。

A

- ・まず、ユネスコに創造都市として認めていただいたことを、市として大いにPRしたいと思っています。
- ・国内で加盟しているのは11都市で、大きな都市が中心です。
- ・越前市においても、このような創造的な基盤がある、歴史文化の基盤があることを、ユネスコに登録されることを通じて、改めて市民や市外の人に知っていただく、そのようなきっかけにしたいというのが1点です。
- ・さらに、世界350都市の仲間入りをし、色々なところとの交流が生まれることによって、交流人口が増える、向こうからも来てもらう、あるいはこちらからも行く、そのような交流が生まれることが2つ目です。
- ・3つ目は、そのような刺激を通じて、本市における創造的な産業、工芸がさらにレベルアップをして、付加価値を高めていくことです。
- ・このような経済的な効果も最終的には得られるのではないかと思います。
- ・また、人材を育て、あるいは外から呼び込んで、この地に定住してもらうことにもつながるのではないかと思います。

Q

・合併してから20年が経ち、今の越前市が対処していかなければならない課題がたくさんあるかと思います。一番大きな課題だと思っていることを教えてください。

A

- ・やはり、人口がずっと減り続けてきたということです。
- ・合併当初は8万7,000人だったのが、今は8万人くらいです。
- ・日本中同じような傾向であり、少しでも減るスピードを落としていくことが大事です。
- ・子育て支援や、出産から妊娠までの応援など、色々やっています。
- ・Uターン政策や企業誘致も人口減に少しでも歯止めをかけるための取り組みです。
- ・地域経済、地域の元気につなげるには、定住人口を少しでも維持すると同時に、交流人口を増やし、観光誘客を行う、あるいは、ビジネスの拡大を図ることを行い、そのために、越前市の宝である伝統工芸や歴史、文化を生かし、外に向けて発信をしていくことが重要だと思います。
- ・このようなことが、市民の幸せな暮らしをこれからも続けられるようにしていく方法かと思っています。
- ・それが課題であり、投資目標であると思います。
- ・課題はたくさんあり、総合計画に書いてあることが全部課題ですが、それに1つずつ取り組んでいる状況です。
- ・それから、自治組織や先ほどの鳥獣害対策もそうですが、人口減少に即した、人口の減

- った状態の社会に合ったシステムに変える、人が減っても、生活が成り立って幸せに暮らせる仕組みづくりを、今まさにやっていくべき時期だと思います。
- ・この20年間積み上げてきたものに、さらに上乘せしていくことが大事だと思います。

Q

- ・6月補正予算は、毎年数億円程度の規模ですが、今年は8,000万円と、例年よりちょんまりとしています。
- ・ほぼ、国や県の補助金です。
- ・e☆SPARKLE などがありますが、市独自の事業が見えにくかったと思います。いかがですか。

A

- ・当初予算があつての6月補正予算です。
- ・当初予算に間に合わなかったので、直近の6月補正を行うというのが、普通の考え方だと思います。
- ・毎予算で目玉を作るというものではないと思います。
- ・県の予算も、当初予算の次は9月補正で、12月は人件費補正だけというのが一般的な考え方です。
- ・最近では社会の変化のスピードが速いので、急いでやらないといけないこともあります。基本的には当初予算で、政策的なものは対応済みです。
- ・しかし、当初予算に間に合わなかったものについては、結果として6月補正予算に回すことになったということです。
- ・e☆SPARKLE などの新しいこともありますし、国の緊急対策事業もあります。
- ・できる限り早く行うため、6月補正で対応したものです。

Q

- ・市長選挙が4か月後に迫っています。
- ・現時点でお話できることがあれば、市長の意向をお聞かせください。

A

- ・現在、後援会も含め、関係の方と相談をしており、熟慮しているところです。
- ・6月議会の中で、そのことを申し上げられれば良いなと思っている段階です。